

特集：銘鳩を生み育てる鳩舎訪問

小松700Kレース総合19位 川原順一 鳩舎 南宮崎支部（都城・FPクラブ）



鹿児島県鹿屋有里、大隅半島の東西南北まさに中央に位置する川原鳩舎。桜島が創ったか、小高い丘陵地帯にレース鳩が翔ために遮るものはない。特産の黒豚900頭を飼育する9豚舎の北西の一角に、脅威の完全手造り大型鳩舎は建っていた。配合舎と選手舎は別平屋で、高床式。室内は広く明るい。サンルームも潤沢だ。ご愛敬で、氏神様みたいなプライベート配合社まで建っていた。大木の枝影から、私を歓待してくれた鳩たちもいた。700K帰還2羽、4羽、6羽と3年続いた…鹿屋で、脅威!?

26年春 小松700Kレース総合優勝 吉本鳩舎 宮崎支部 (STクラブ)



<ご自宅>

新設の西都中学校に隣接位置する街中鳩舎

それなりに、ご苦労も多いことと察せられる。競翔委員長としての多難は察し難い。改めて感謝！
 配合舎と選手鳩ルームが別棟の合理的鳩舎。中学校の校庭上を飛翔ラインとしている現実、実に
 ユニークと言える。今期の最終レースを勝ち取った。吉本氏の血統研究を垣間見れば、それもまた、
 頷ける。本業事務所に隣接された選手舎は、一目管理で完璧だ。新設中学校の新高フェンスが予期
 せぬ脅威か・・・？ 玄関の飾り窓、創業100周年の宮崎交通バス停ミニ標識が強く印象に残った。

25年秋・26年春レースで秀逸 市来原鳩舎 宮崎支部（STクラブ）



コンパクトでゴージャスさを感じる鳩舎。4つの鳩部屋と管理室が全て二階屋に収納され、簡潔抜群！二階に上がる階段からの北西の眺めは、長閑で広大。手すりにも安全対策が施されていた。鳩舎内は整然としていて、種鳩部屋にやや広く大きめの巣箱が並んでいた。焼いての衛生管理も完璧だ。「夏は中三日、冬も中六日の水浴は欠かせない」と、市来原氏は言い切った。…素晴らしい！これまでの秀逸な鳩たちが獲得したカップの数々、完全な手づくりの餌箱大小、電気や水道工事など「やれることは自分でやる。知らないことは、隣人に学ぶ…」と、あくまでも謙虚だ。

26年シルバーカップ独占！ 永田鳩舎 南宮崎支部（都城・FPクラブ）



<手造りトラップ>

26年春スーパースピード、シルバーカップレースの総合優勝鳩を作翔した永田洋洋氏（永田鳩舎）51年という鳩歴は、ご自宅・鳩舎を訪問すると初っ端から伺い知れた。有田で手に入れたという白鳩の陶器が門柱の上で私を迎えてくれた。鳩舎の環境は言うまでもない。永年の工夫は隅々まで見て取れた。手づくりのトラップには頭が下がる。計算された入舎角度で左右に降下できる仕組み。巣箱、止まり木などもパーツの取り外し、組み合わせで多様に変化利用できる。何せ、ハンドメイドは愛鳩に優しく温かい。オオタカ出没だけが高城石山の災難か・・・!?